

平成 22 年度 事務事業事後評価調書 (平成 21 年度事業)

整理番号 8 - 33

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名	雄武地区特定漁港漁場整備事業(漁場整備)						
評価者	担当課名	産業振興課		担当係名	水産係		
	管理職	職名	課長	作成者	職名	課長補佐兼水産係長	
		氏名	石井 弘道		氏名	大石 嗣夫	
事業の概要	増養殖施設整備(ウニ囲い礁)に係る地元負担金				全体計画 (平成 20 年度 ~ 23 年度)		
				事業費	国・道支出	千円	
					地方債	10,500 千円	
					その他	8,040 千円	
					一般財源	21,660 千円	
					事業費計	40,200 千円	
実施方法	直営	民間委託		その他 ()			
第 5 期 総合計画 (前期)		登載事業	非登載事業	優先度	A		
事業の位置付け	政策目標	1	はつらつ・雄武～地域産業の振興～				
	基本施策	3	水産産業の振興				
	単位施策	1	水産資源の保護・増大				
	事務事業の種類		自治事務	法定受託事務			
	その他計画・根拠等	雄武地区特定漁港漁場整備事業計画・漁港漁場整備法					
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(見込)	23年度(計画)	24年度(計画)	
	国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円	
	地方債	千円	千円	千円	千円	0 千円	
	その他財源	1,600 千円	1,660 千円	1,120 千円	1,600 千円	0 千円	
	雄武町負担額 (一般財源)	6,400 千円	6,640 千円	4,480 千円	6,400 千円	0 千円	
	合計	8,000 千円	8,300 千円	5,600 千円	8,000 千円	0 千円	

131

2 事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町内漁業者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	資源量の減及び既存増養殖施設の整備改良	増養殖場整備面積			
		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値		
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	稚ウニの天然発生及び成長の向上	増養殖場造成面積	目標年度	平成21年度	
			目標値	2,900 m ²	
			実績値	2,900 m ²	
			達成度	100.0 %	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果 = 目的	漁獲量増による漁家経営の安定化		目標年度		
			目標値		
			実績値		
			達成度	%	
内 容(どのような手段で何を行ったか)					
増養殖施設整備に係る負担	雄武地区特定漁港漁場整備事業計画に基く雄武南部地区(元沢木)の増養殖施設2,900 m ² の整備				

3 事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要 / 概ね必要 / 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	雄武地区特定漁港漁場整備事業計画に基づく事業であり、水産資源の増大・保護を図るため必要である。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効 / 概ね有効 / 課題あり	設定した目標値の達成状況	増養殖施設(ウニの囲い礁)を整備する事により、海藻が繁茂し、稚ウニの天然発生及び身入りの良いウニを増産し、漁家経営の安定化が図られている。
	<input type="checkbox"/> 達成	
	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的 / 概ね効率的 / 課題あり	判断の理由	道と町との負担割合が定められており、事業費抑制等のコスト削減ができない。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
	<input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

公平 公平 / 概ね公平 / 公平でない	判断の理由	水産資源の保護・増大のため事業を推進しており、受益者分担金(町負担金の2割)を徴収している。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/> その他	

4 総合評価【A～D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
雄武地区特定漁港漁場整備事業計画に基づき実施されており、施設整備による効果は絶大なものがある。		

今後の展開方向 (Action)	↓	↓	↓
	継続 / 現状維持 ウニ資源については、ホタテ、サケ、毛ガニの主要3魚種に続く重要な漁業資源であり、漁家経営の安定に寄与し、平成8年から沢木地区、元沢木地区、幌内地区、魚田地区、雄武地区と実施されており、稚ウニの天然発生及び成長の向上等の効果が表れていることから、継続実施が必要である。 *展開方向の区分 継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更 終了 休止 廃止		

5 その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)